

## 黒田武志方丈との思い出

第十六回生 吉田 日光

(日蓮宗真清浄寺住職)

つつしんで留学僧育英会第三十回目を迎え、心より御祝申し上げます。先代武志方丈、現理事長博志方丈各聖には一方ならぬ、お世話を賜り喪心より深く御礼申し上げます。さて、思い出すこと三十数年前、牛込真清浄寺再建の為、大願をかけ千葉県下総日蓮宗大本山、正中山法華経寺遠寿院大荒行に入行いたしました。天台宗の千日回峰行、真言宗の四度加行、日蓮宗の百日大荒行が宗教界の三大荒行であります。

荒行中は、二時間半の睡眠で、食事は一日二回(一汁一菜)朝三時から夜十一時迄七回の水行と読経、写経をくりかえし、祈祷の秘伝を受けます。一回の荒行が百日間で、親が死んでも子供が死んでもその間はお寺に帰ることも、出ることでもできないのであります。ですから、荒行に耐えられず、途中で脱走する人もでるくらいです。その荒行を七回七百日を満願(伝師相承皆伝)その後、善光寺御高住故黒田武志方丈にお会い出き、推挙を頂き、タイの

ワットパクナム留学の機会をお与え頂いたのであります。つまり大乘と小乗両佛教の両方を修行したいと思っていたことが現実に実現できたのであります。当時本当に法悦でありました。

「河口（パクナム）の寺（ワット）という意味のワットパクナムは、アユタヤ王朝時代（一三五〇～一七六七）後期の十八世紀初めに建立され、一九一七年以降、施設や教育内容が拡充され、瞑想の理論と実践法で著名になり、尼僧も受け入れ、海外との交流や外国人僧の養成、パリー語の教育でも知られる名利のお寺である。」

雨安居の間、ワットパクナムで二二七の戒律を守りながら、宅鉢の尊い修行をさせて頂き、現在の僧侶としての自分が存在しているのであります。その故武志方丈の国際貢献に感化され、真清浄寺別院をインドブダガヤに、又、ボランティアでインドとスリランカコロンボに小学校を建立いたしました。これもひとえに、横浜善光寺留学僧育英会の故黒田武志方丈さま、現理事長の黒田博志さまのお陰であります。九拝合掌

追伸 只今、日蓮聖人の真実の遺文と法華宗史の本を、小野寺直貫主猊下と共著で出版、執筆中です。迄ご期待を!!

